

2022 年度 事業報告書 会計報告書



協働プロジェクトを実施している聖アンナ・ミッション
病院（タンザニア）での、スタッフ間の実技演習

目次

1. 今年度の歩み	1
2. 中期計画における位置づけ	3
3. 海外諸活動	3
[3-1] 海外派遣	3
(1) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）	3
(2) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）	5
(3) 短期派遣	6
[3-2] 奨学金事業	6
[3-3] 協働プロジェクト	13
(1) SALT（次世代のための健康と衛生）プロジェクト	13
(2) シロアムプロジェクト	13
(3) ママ・ナ・ムトトプロジェクト	14
[3-4] 災害救援復興支援	16
(1) ミャンマー難民支援（タイ）	16
4. 国内諸活動	17
[4-1] 国際保健人材育成	17
[4-2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動	19
[4-3] マーケティング	21
5. 運営体制	25
[5-1] 社員総会	25
[5-2] 理事会	25
[5-3] 委員会	26
[5-4] 事務局	27
6. 社員会員・サポート会員の現状報告	28
7. 2022年度の主な動き	29

1. 今年度の歩み

常務理事 大友宣

なぜ、あなたは災いを私に見せ
労苦を眺めたままなのですか。
私の前には破壊と暴虐があり
争いといさかいが起こっています。(ハバクク書1章2節)

旧約聖書時代の預言者ハバククは、大国バビロニアに侵略されそうになっている祖国のイスラエル人たちと周りの国々との間の状況を、「私の前には破壊と暴虐があり、争いといさかいが起こっています」と語ります。2500年以上も前に語られた言葉が今の政治状況でも当てはまります。同じようにローマ帝国の支配下にあつて破壊と暴虐があるイスラエルのただ中で、主イエスは小さくされた一人ひとりを見つけ出し、寄り添い、立ち上がらせ、歩ませ、主にある平和を宣言されました。JOCSのはたらきも、破壊と暴虐のある世界にあつて、主にある平和を作り出すはたらきです。

2022年、世界では、破壊と暴虐が渦巻いています。ウクライナとロシアは戦いを続けています。アフガニスタン、ミャンマーでも民衆が抑圧の政治の中にいます。中国や北朝鮮は軍事力を誇示し、それに対応するように日本政府も防衛力を強めようとしています。そのほかの世界中の国々でも抑圧する政治の力が強く残っています。それは先進国と言われる国でも例外ではありません。世界では新型コロナウイルス感染症が克服されつつあり経済活動が再開しつつありますが、日本でも世界でも、この中で取り残されている人が出てきています。

2022年はJOCS5カ年計画の最終年でした。2018年に5年後のJOCSのビジョンを「取り残された一人ひとりを探し、苦悩と喜びを皆で分かち合う」と設定し、以下の2点に重点的に取り組んできました。

1. 困難の中にある取り残された一人ひとりを探し求め、よりよい変化をもたらします。
2. そこで見出された一人ひとりと共に歩み、苦悩と喜びをより多くの人々と分かち合います。

以前には存在していなかった新型コロナウイルス感染症が発生し、世界を席卷しました。この混乱の中で新しい光を見つけようともがき、傷つきながらも前に進みました。このコロナ禍で弱者はさらに周辺に追いやられました。しかし、そのような状況においてもワーカー、奨学生そしてカウンターパートが平和を作り出す働きを継続し、JOCSもその活動に参加することができました。

岩本直美ワーカーはバングラデシュ・マイメンシンでの知的障がい者と共に生きる第7期までの活動を2021年12月に終え帰国していましたが、2022年7月からバングラデシュ・

ディナジプールで新しく知的障がい者のためのデイケアを準備し、立ち上げることができました。新しい地での活動でも知的障がい者とその家族たちと共に生き、祝福に満たされています。雨宮春子ワーカーは2022年度、順調に現地での活動を進めることができました。母子カード利用促進や、分娩監視装置導入、新生児心肺蘇生法研修など現地の医療従事者のレベルアップに取り組みました。2023年4月の任期終了に向けて、タンザニア・タボラでの安全なお産のため、現地の人々と共に生きました。

奨学生については昨年よりはコロナ禍の影響が少なくなりました。JOCSは、現地で学び、現地のために働く奨学生一人ひとりに対応してきました。カウンターパートの状況も最近は変わりつつあり、病院はより高度の技能を求められるようになってきています。そのようなニーズにも対応できるようにしました。2022年度には、中断していた事務局スタッフの現地モニタリングを再開することができました。奨学生たちが送ってくださる「ものがたり」は、会員への大きな力になっています。

協働プロジェクトは、ケニアでは療育事業、タンザニアでは母子保健を継続しました。ケニアの療育事業支援では終了時評価に当たり、経営状態に関してアドバイスをもらうため短期専門家を派遣しました。療育事業に関して良い基礎が築かれました。タンザニアでは母子カードの利用促進、分娩監視装置の導入、新生児心肺蘇生の研修をおこない、現地スタッフが母子のいのちを守ることができるように訓練しています。2事業とも女性と子どもが活躍できる平和な社会を目指しています。現地の団体と協働し、共に成長することができました。

JOCSではワーカー派遣、奨学金事業、協働プロジェクトの3事業をおこなっていますが、特にタンザニアでは3事業の連携を深めてきました。タンザニアではワーカーの任期終了、協働プロジェクトの終了にむけて、ますます3事業が連携しています。

スタディツアーは今年度も実施できませんでした。ワーカーを発掘・育成するためにオンラインでの勉強会を定期的で開催し、以前よりも広範囲な地域から参加者を集めることができるようになりました。

2022年度には使用済み切手運動が2年ぶりに再開になりました。国内活動はオンラインを活用しつつ、対面での活動も徐々に検討しています。60周年に伴い動画の作成も検討していましたが、昨年同様海外渡航できないため計画は延期としました。

今年度は、「5ヵ年計画2018」の5年目でした。「取り残された一人ひとりを探し、苦悩と喜びを皆で分かち合う」ことを目指して作成したこの計画を実現するよう一步一步進んできました。5ヵ年計画の終了にあたり、タスクを設置し5年の振り返りと次の5ヵ年計画を策定しました。これからも、共に生きる私たちの活動を一層充実させていくよう、努力してまいります。変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。今年度も、多くのボランティアの皆様がJOCSの活動を支えてくださいました。私たちの活動に共感してさまざまな形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

2. 中期計画における位置づけ

2022年度は、5カ年計画2018の最終年であった。2020年度、2021年度は、新型コロナウイルス感染防止のため多くの活動が中止や延期となっていたが、2022年度はコロナ禍以前の活動に戻り始めた。

海外諸活動においては、渡航制限が一定程度残っているものの渡航が可能となり、海外出張を伴う活動も実施できた。しかし、同時に、活動の一部オンラインによる代替も併用した。奨学金事業では、多数の新規の奨学生も採用したが、まだコロナ禍前ほどには現地の状況が好転しておらず、入学試験実施が遅延したり、オンライン授業が続いたりして、就学がスムーズにできないケースもあった。

国内では、2022年度には使用済み切手整理のボランティアの活動を一部再開したが、2年以上にわたったボランティア活動の休止による使用済み切手運動への影響を引きずった。

5カ年計画2018では、会員・寄付金を増やすことで財務基盤を安定化させることも目指しており、会員減少を抑え、より多くの支援者を得ることを重要なこととしていたが、未だ会員数は漸減している。新規の支援者を得るための活動の一部は、新型コロナウイルス感染防止のために実施できなかった。しかし、雑誌広告などを通してJOCSを知り、支援者となってもらえるケースも多かった。

3. 海外諸活動

ワーカーは2名を派遣、協働プロジェクトは2件を実施、奨学金では86名を支援した。新型コロナウイルス感染防止の水際対策が緩められたため、現地モニタリング、短期専門家派遣も再開した。引き続きオンラインで代替できる部分は必要に応じてオンラインで実施した。災害救援復興支援は、ミャンマー難民の医療支援のために医療チームを派遣した。

[3-1] 海外派遣

タンザニア派遣の雨宮春子ワーカーは、母子保健の協働プロジェクトであるママ・ナムトトプロジェクトを継続した。PIME（ミラノ外国宣教会）がバングラデシュのディナジプール県で始めた、障がい児とその家族を対象としたプロジェクトへの協力のために、岩本直美ワーカーを派遣した。

(1) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）

派遣先：TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所)
St. John Paul II Hospital（聖ヨハネ・パウロ2世病院）

派遣期間：2019年1月～2023年4月

活動概要：ママ・ナ・ムトプロジェクト（協働プロジェクト）の活動
TAHOが実施するセミナーとスーパービジョンの支援

1) ママ・ナ・ムトプロジェクト

① TAHO傘下の保健医療施設で、状況を把握し必要時に分析できるように、継続して基礎調査と同じ項目のデータ収集をおこなった。

② 聖ヨハネ・パウロ2世病院での活動

・母子に対する個別保健指導を実施した。

妊婦健診の重要性、産褥健診の重要性、新生児健診の重要性、保健医療施設で出産することの重要性について指導した。健診に関しては、早期に受診開始され、総受診回数が増加するように働きかけた。集団健康教室の体制づくりは実施できなかった。

・医療従事者に対する、母子カードを活用した技術と知識の向上・標準化・定着のためのトレーニング、およびマニュアルや掲示物、教材作成などを通して、適切なケアを提供するための体制作りをした。オンザジョブトレーニング、スーパービジョン、他団体の研修を利用して、妊婦健診、産褥健診、新生児健診、分娩時の新生児処置、分娩介助、分娩時の入院からの流れ（情報収集と助産診断）、異常時の管理、病棟での産褥ケアと新生児ケア、産後の退院指導、新生児蘇生法に関する研修を実施した。分娩監視装置（妊娠中と分娩中の母体子宮収縮と胎児心拍数を観察する機械）の使用方法和モニター判読方法に関しては、座学研修と実技研修を実施した。臨床で使用する中で、知識と技術の向上を図った。

分娩管理、新生児蘇生法、分娩監視装置の研修に関して、技術の定着と継続研修の体制は、整うまでには至らなかった。

③ TAHO傘下の他施設での活動

・母子に対する個別保健指導、母子カードを活用した医療従事者に対する知識と技術の向上に関しては、スーパービジョンと外部研修、セミナーを利用して実施した。

・分娩監視装置の使用方法和モニター判読方法に関しては、聖アンナ・ミッション病院とンダラ病院で、座学研修と実技研修を実施した。

2) TAHOでの活動

・TAHOが四半期に一度、産科の保健医療施設を対象に実施しているスーパービジョン（巡回視察）の準備や実施を支援した。

・TAHOが年に一度開催するセミナーの準備や実施を支援した。

(2) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）

派遣先：PIME（Pontificio Istituto Missioni Estere：ミラノ外国宣教会）

派遣期間：2022年7月～2025年6月

活動概要：PIMEが実施する「JOYJOYプロジェクト」（現地の知的な障がいのある子どもとその家族を支援するプロジェクト）への協力

1) 準備

① 施設準備とスタッフの採用

活動拠点を決めバリアフリーとなるよう修繕工事をおこなった。現地調査期間中に適当と思われるスタッフ（女性3名）を採用した。事業運営に必要な備品・車椅子・補助具を購入、砂場とブランコも屋外に設置した。

② 活動内容の準備

JOYJOYプロジェクトの目的を明確にし、事業内容の概要を整えた。デイケアセンターについて日程を立案した。

2) 活動の実施

① 開所式

子どもたちや家族、ディナジプール教区のセバスチャン司教や関係者を招いて、7月22日にJOYJOYプロジェクトの開所式をおこなった。

② デイケア

毎週月曜日から木曜日の週4日、午前10時から午後3時半までデイケアを開いた。一日平均15名の子どもたちが集った。4名の母親たちを非常勤ヘルパーとして採用した。

③ 家庭訪問と社会福祉支援

毎週土曜日と日曜日に、デイケアの欠席児童や困窮する家族、情報が寄せられた障がいのある子どもたちの家庭を訪問した。登録者数は2022年12月末で31名。また、病院受診や社会福祉事務所に同伴するなどの支援をおこない、3名の子どもの出生届、障がい者証明カードおよび障がい者手当発給に必要な諸手続をおこなった。

④ 補助具自具具及び医療支援

車椅子2台、テーブル付き椅子、おねしょパッドとおむつカバー、抗てんかん薬などを支援した。

⑤ スタッフ養成

シンガポール人作業療法士とオーストラリア人養護学校教諭からは、プロジェクト開始当初からオンラインでの指導助言を受けた。2022年10月から、日本人理学療法士から月一度、子どもの治療と、母親およびスタッフへの訓練指導を受けた。

⑥ 啓発とファンドレイズ

地元有力者や市長・県知事などと面談し、JOYJOYプロジェクトへの支援を求めた。

毛布 80 枚などの支援を受けた。

(3)短期派遣

バングラデシュのワーカー派遣要請の事前調査のため、2022年3月末から2022年6月末に岩本直美氏を短期ワーカーとして派遣した。ディナジプール県ディナジプール市とその周辺地域において、知的・発達障がいのある子どもたちがおかれている状況、並びに現在履行されている障がい福祉サービス等について知るため、家庭訪問や障がい分野に関わる団体などを訪問、情報収集した。

[3 - 2] 奨学金事業

2022年度は、インドネシア、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、ケニア、タンザニア計7カ国の86人を支援した。渡航制限が緩められたため、インドネシア、タンザニアは渡航によるモニタリングを実施した。バングラデシュとウガンダはオンラインによるモニタリングをおこなった。2023年度の新規募集に備えて、協力団体の見直しと奨学金事業実施のガイドラインおよび国別方針の改訂をおこなった。

(1)インドネシア

田村久弥元ワーカーや塚本香代美元ワーカー、長尾真理元ワーカーの派遣先であった GKST、GMIM 及び ICAHS 傘下にある保健医療施設で働く職員 17 名を支援した。

インドネシアでは、病院の規模・レベルに応じた病院の認証を取得することが義務づけられている。その中に配置すべきスタッフの人数や資格の基準が細かく規定されており、順守できない場合は、政府から病院の認証を取得できない。そのため、認証取得の人材面における基準を満たすことができるように、近年は専門医や専門看護師・助産師の資格取得を希望する申請が続いている。2022年度は専門医、専門看護師・助産師や看護学修士の資格取得の要請に応えた。

ICAHS 傘下の病院から将来の管理職を期待されている 2 名に対し、看護学修士の取得の支援をした。離島の病院は人材不足が課題であり、人材育成の重点ターゲットエリアとしている。GKST シナルカシ病院は 2023 年に新病棟移転を控え、基準を満たす人材の配置が求められているが、キリスト教系の私立病院は特に医師の雇用が難しく、当病院で長期雇用が期待できる地元出身者を専門医や専門看護師・助産師として育成することが喫緊の課題である。GMIM カローランアムラン病院も同じく専門医（特に外科医、眼科医、小児科医、麻酔医）と放射線技師や臨床工学技士など有資格者の育成が求められている。

* GKST (Gereja Kristen Sulawesi Tengah : 中部スラウェシキリスト教会)

* GMIM (Gereja Masehi Indjili Minahas : ミナハサ福音教会地域保健サービス部)

* ICAHS (Indonesia Christian Association of Health Service : インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

(2)カンボジア

カトリックプノンペン司教区の CCHS に所属する医師 1 名の病院管理学修士号の取得を引き続き支援した。5 月に渡航して近況を確認した。

* CCHS(Catholic Community Health Services:カトリックコミュニティ保健サービス)

(3)ネパール

岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことのある HDCS、TLMN アナンダバン病院、UMNMDT とこれらの組織の傘下にある病院で働く保健医療従事者および職員 20 名を支援した。2020 年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大を受けてネパール政府が発出する行動規制に伴い、2 年間入学試験実施が中止された。2022 年に入り少しずつ入学試験が再開され、予定より 1 年、2 年遅れで入学試験を受け、研修を開始した奨学生も多い。2 年間入学試験が中止されていた影響で、2022 年度採用者の中にはまだ入学試験を受験できていない奨学生もいる。

医療へのアクセスが難しい山間部にある保健医療施設では、地理的・経済的な理由から人材の雇用が難しく、その施設のある地域出身のスタッフを育成する必要がある。各病院の人材開発の要望に応え、医師の専門医資格、上級の看護師資格や補助看護助産師の正看護師の資格取得の支援をした。またネパール政府は、病院規模に応じて看護の管理職には修士号の取得を必須条件としているため、それに応える支援をした。

* HDCS (Human Development and Community Services) ネパールにあるキリスト教系 NGO

* TLMN (The Leprosy Mission Nepal) ネパールにあるハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO

* UMNMDT (United Mission to Nepal Medical and Development Trust : ネパール合同ミッション) キリスト教系国際 NGO

(4)バングラデシュ

乾眞理子元ワーカーの派遣先であった KHCP で働く 5 名を支援した。KHCP では、創立者のベーカー医師から技術を学んだ村人らが医療サービスを担ってきた。ベーカー医師亡き後、医療技術の維持・向上に加え、団体存続のために有資格者が必要となっている。奨学生は、仕事を続けながら 3 年間でパラメディックの資格取得を目指す。2022 年度は、1 名が資格を取得し、1 名が新たに採用された。

* パラメディック：医師ではないが、農村地域において、複雑でなく、頻繁に起こる病気の診断と治療および、妊娠出産時のサポートをおこなう。

* KHCP (Kailakuri Health Care Project : カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト)

(5)ウガンダ

2つの協力団体、UPMBとSRDを通じて、13名を支援した。

2022年度に研修を終えた奨学生は4名だった。2022年度はUPMB傘下でウガンダ東部にある病院から1名、SRDの僻地医療を担う診療所から2名の奨学生を採用した。UPMBおよびSRDとオンラインでモニタリングを実施した。5歳未満児および妊産婦死亡率が高いウガンダでは、産婦人科医、小児科医、助産師のような医療人材が求められていると報告があった。また、政府から出向している医療職員の引き戻しもあり、自前の人材育成が継続して必要と確認された。

* UPMB (Uganda Protestant Medical Bureau) ウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステ派の3教派が連携し、317の医療施設を統括する全国規模のネットワーク組織

* SRD (South Rwenzori Diocese : ウガンダ聖公会南ルウェンゾリ司教区)

(6)ケニア

協働プロジェクトの協力団体であるシロアムの園のスタッフ1名の理学療法学士の資格取得を支援した。就学により、理学療法の基礎となる解剖学等の理解を深め、一人ひとり異なる障がいのある子どもたちに、それぞれ適したセラピーができるようになったと報告があった。

(7)タンザニア

TAHO傘下にある保健医療施設で働く職員29名を支援した。

雨宮春子ワーカーの派遣先である聖ヨハネ・パウロ2世病院で、将来的に協働プロジェクトに関わることが期待できる職員の、医師や看護師の資格取得や、転職することなく長期的、継続的な雇用が期待できる神父やシスターを優先的に支援した。TAHO傘下の保健医療施設には、基本的な短期研修を受けただけで、公的資格を持たずに医療助手として働いている職員が多い。また、TAHO傘下の全保健医療施設のどの有資格職種においても、政府が定める職員数を満たしていない。そのため各病院で優先度の高い職種である医師、正看護師・助産師、薬剤師、臨床検査技師の資格取得を目指す職員と、ンダラ病院のソーシャルワーカー育成の支援をした。

* TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

2022年度奨学生一覧

インドネシア (17名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
看護師長	41	女	GKST Sinar Kasih Hospital	公衆衛生学(修士)	2019年07月～2022年11月
看護師	45	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2020年07月～2022年10月
医療助手	25	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2020年07月～2023年12月
看護師	43	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2020年07月～2022年10月
看護師	41	女	ICAHS Estomihi Hospital	看護学	2019年09月～2023年04月
病院ボランティア	21	男	GKST Sinar Kasih Hospital	看護麻酔学	2020年08月～2023年08月
病院ボランティア	20	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2025年08月
病院ボランティア	22	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2024年07月
病院ボランティア	21	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年07月～2025年07月
病院ボランティア	21	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2025年07月
看護師・公衆衛生 事業責任者	45	男	ICAHS Lende Moripa Christian Hospital	看護学	2020年09月～2024年06月
看護師	34	男	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2021年07月～2022年06月
医師	35	女	GMIM Kalooran Amurang Hospital	医学(小児科専門)	2022年02月～2025年12月
助産師	31	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2023年03月～2025年09月
看護師	35	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2023年02月～2025年02月
医師	34	男	GKST Sinar Kasih Hospital	医学(内科専門)	2023年01月～2027年12月
専門看護師	51	男	ICAHS Mojowarno Hospital	疫学(修士)	2022年09月～2023年09月

カンボジア (1名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
医師	38	男	Catholic Community Health Services	病院管理学	2020年12月～2022年12月

ネパール (20名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
歯科助手	27	女	HDCS Chaurjahari Hospital Rukum	歯学	2019年11月～2022年12月

2022年度奨学生一覧

准看護助産師	34	女	HDCS District Hospital Lamjung	看護学	2019年09月～2023年03月
看護師	27	男	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2018年08月～2023年05月
医師	37	女	United Mission Hospital Tansen	医学（病理学）	2019年06月～2022年08月
臨床検査技師	31	男	HDCS District Hospital Lamjung	臨床検査学	2022年09月～2026年08月
看護教師	35	女	United Mission Hospital Tansen	看護学（修士）	2022年05月～2024年05月
看護師	28	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2021年12月～2024年12月
看護師	25	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2020年12月～2022年05月
看護師長	47	女	United Mission Hospital Tansen	看護学（修士）	2022年09月～2024年09月
補助看護助産師	32	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2020年09月～2023年03月
看護師	28	女	HDCS District Hospital Lamjung	看護学（修士）	2022年05月～2024年05月
看護師	37	女	TLMN Anandaban Hospital	救急看護研修	2022年03月～2022年06月
看護師	29	女	TLMN Anandaban Hospital	助産研修	2022年03月～2022年05月
看護師	26	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2021年12月～2024年12月
看護部長	34	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学（修士）	2022年04月～2024年04月
臨床検査技師助手	40	男	United Mission Hospital Tansen	臨床検査学	2022年01月～2023年12月
補助看護助産師	39	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2022年01月～2023年12月
補助看護助産師	27	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2023年01月～2025年01月
看護師	25	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	助産学	2022年12月～2025年12月
看護師	25	女	HDCS District Hospital Lamjung	看護学	2022年09月～2026年09月

バングラデシュ（5名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
モニタリング担当者	44	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2020年01月～2022年12月
パラメディック	36	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2021年01月～2023年12月
パラメディック	34	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022年01月～2024年12月

2022年度奨学生一覧

パラメディック	33	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022年01月～2024年12月
パラメディック	35	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2023年01月～2025年12月

ウガンダ (13名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
准医師	43	男	SRD Kinyamaseke Health Center III	公衆衛生学	2018年08月～2022年06月
看護助手	37	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2019年12月～2023年06月
准看護師	33	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	看護学	2021年03月～2022年06月
准看護師	28	男	SRD Buhaghura Health Center III	医学	2021年03月～2024年03月
准助産師	28	女	SRD Kanamba Health Center III	助産学	2021年03月～2022年07月
准看護師	34	男	SRD St. Paul's Health Center IV	麻酔学	2021年03月～2022年12月
医師	30	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	産婦人科学	2020年08月～2023年05月
准看護師	33	女	SRD St. Paul's Health Center IV	医学	2022年01月～2024年12月
超音波検査士	32	女	SRD Rwensade Health Center IV	超音波診断学	2021年08月～2024年07月
看護助手	39	女	UPMB Amai Community Hospital	看護学	2022年02月～2024年07月
医療事務スタッフ	21	男	SRD Rwesande Health Center IV	医学	2023年01月～2027年04月
准看護師	27	男	SRD Rwesande Health Center IV	医学・公衆衛生学	2023年03月～2024年06月
准看護師	25	女	UPMB Kumi Hospital	放射線学	2023年03月～2026年03月

ケニア (1名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
理学療法士	30	男	The Garden of Siloam	理学療法学	2018年09月～2022年07月

タンザニア (29名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
病院管理	45	女	TAHO Ndala Hospital	病院管理学	2017年10月～2022年10月
医師補	45	女	TAHO AMUCTA Dispensary	医学	2018年10月～2024年07月
医師補	39	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2018年08月～2024年07月

2022年度奨学生一覧

医療助手	24	男	TAHO Mwanzugi Dispensary	医学	2019年09月～2023年03月
医師助手	22	男	TAHO Mwanzugi Dispensary	薬学	2019年09月～2022年09月
医療助手	27	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2019年10月～2022年10月
医療助手	25	男	TAHO St.John Paul II Hospital	看護学	2019年10月～2022年10月
情報管理スタッフ	29	男	TAHO St.John Paul II Hospital	診療記録	2019年10月～2022年06月
司祭	37	男	TAHO Ndala Hospital	薬学	2020年11月～2023年11月
司祭	32	男	TAHO St.John Paul II Hospital	病院管理学	2020年11月～2023年11月
医療助手	25	女	TAHO Ndala Hospital	看護学	2020年11月～2023年11月
医療助手	23	男	TAHO St.John Paul II Hospital	臨床工学	2020年11月～2023年10月
医療助手	32	女	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020年11月～2025年11月
医療助手	31	女	TAHO St.John Paul II Hospital	看護助産学	2020年11月～2023年10月
医師補	29	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020年11月～2025年11月
医療助手	21	男	TAHO Ndala Hospital	医学	2021年10月～2024年09月
医療助手	20	女	TAHO Ndala Hospital	薬学	2021年10月～2024年09月
医療助手	27	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2021年10月～2024年09月
医療助手	30	女	TAHO St. Ann's Mission Hospital	看護助産学	2021年10月～2024年09月
会計	31	女	TAHO St.John Paul II Hospital	会計学	2021年11月～2024年11月
司祭	35	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021年10月～2024年09月
医師補	27	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021年10月～2026年09月
医師補	24	女	TAHO Mwanzugi Dispensary	医学	2022年10月～2027年10月
医療助手	31	男	TAHO Ndala Hospital	ソーシャルワーク	2022年10月～2025年10月
医療助手	27	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2022年10月～2025年06月
准看護助産師	27	男	TAHO Ndala Hospital	看護助産学	2022年10月～2024年10月
臨床検査技師助手	39	女	TAHO St.John Paul II Hospital	臨床検査学	2022年09月～2023年09月
准看護助産師	32	男	TAHO St.John Paul II Hospital	眼科学	2022年10月～2025年10月
医療事務スタッフ	34	女	TAHO St. Ann's Mission Hospital	薬学	2022年09月～2025年08月

[3 - 3] 協働プロジェクト

カンボジアのSALTプロジェクトの事後評価は、協力団体の都合が合わず実施しなかった。ケニアのシロアムプロジェクトは、療育施設経営の専門家を交えてモニタリングを実施し、次期プロジェクトの実施が決定した。タンザニアのママ・ナ・ムトプロジェクトは終了時評価を実施し、その結果を受けて1年延長することとなった。

(1)SALT (Sokkapheap Anamai La-or sumrup samai Thmey : 次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国 : カンボジア
活動地域 : バッタバン州
プロジェクト期間 : 2014年10月1日～2019年9月30日
協力団体 : バッタバン司教区ヘルスセンター
受益者 : バッタバン州内の16小学校および8中学校の高学年生
プロジェクト目標 : 小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

2019年9月に終了した当プロジェクトは、プロジェクトで作成された教材を使い、カリキュラムに沿って健康教育と思春期教育を多数の学校で実施していた。そしてプロジェクト終了後もヘルスセンターの活動として継続的に実施される予定であった。その実施状況を確認し、今後の協働プロジェクトへ活かす目的で、事後評価を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、2020年度、2021年度の実施は延期した。2022年度は渡航制限がほぼ撤廃されたが、当プロジェクト担当の司祭が長期休暇で不在であったため、2022年度も実施できずに終わった。

(2)シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア
活動地域 : キアンブ郡 インデンデル村 (7月まで)、カブク村 (8月以降)
プロジェクト期間 : 2016年4月1日～2023年3月31日 (7年間)
協力団体 : コイノニアミニストリー シロアムの園
受益者 : シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力などの発達に障がい (重複障がいが多い) のある子どもおよびその家族
プロジェクト目標 : シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

2022年度は、2名の短期専門家を派遣し、シロアムの園のスタッフの能力強化を支援した。9月には療育経営の専門家である土島智幸氏を派遣した。子どもたちの口腔環境の改善のため、歯科などの専門家の短期派遣に加え、診療記録システムの構築、シロアムの園幹部職員へのリーダーシップ研修が提言された。

11月には理学療法士の山内章子氏を短期専門家として派遣し、理学療法スタッフのムハンジ氏に5度目の理学療法指導をおこなった。基本手技の確認に加え、家庭における子どもたちの生活の質を向上させるよう、家庭生活に必要な動作を想定した理学療法を指導した。山内氏は、ムハンジ氏に加え、シロアムの園の作業療法士2名も対象にしたオンラインでの指導を2021年度から継続している。この度の現地指導では、オンラインでの指導がムハンジ氏の考察力および観察力の向上につながっていると確認された。また2022年度、ムハンジ氏はJOCSの奨学金によって理学療法学士を取得し、知識に裏付けされたセラピーを子どもたちに提供できるようになったと、山内氏から評価された。現在セラピーをおこなっていない歩行が可能な子どもたちにも、セラピーの必要性が確認され、オンラインで引き続き指導していく予定である。

シロアムの園の登録児数は、プロジェクト開始時（2016年）の39名から2022年6月末までに104名と大幅に増加した。増加する子どもの必要に応えるため、シロアムの園は2022年8月に新拠点に移動した。JOCSは2022年9月に新拠点での療育活動を視察した。体育館や研修センターは建築中であったが、子どもたちが過ごす母屋は完成しており、移転前と同様に療育活動が実施されている状況を確認した。受益者、スタッフ、地域関係者にインタビューをした上で、シロアムの園代表と協議した結果、現行プロジェクトを通して、療育サービスを提供するために必要な療育スタッフの基本的な技術や姿勢が築かれたと確認された。また、アセスメント・個別療育計画・記録・評価などの体制が確立され、スタッフがそれらに従って子どもたち一人ひとりのニーズに寄り添うサービスを考えることができるようになったと確認された。そこで、協働プロジェクトの次期フェーズでは、築かれた基礎が持続できるよう、人材の層を厚くするなど、強固にすることを目標にすると合意した。

(3) ママ・ナ・ムトトプロジェクト

対象国 : タンザニア
活動地域 : タボラ州タボラ大司教区
プロジェクト期間 : 2018年4月～2024年3月（6年間）
協力団体 : TAHO（Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所）
受益者 : TAHOとその傘下の10の保健医療施設（病院や診療所など）
プロジェクト目標 : TAHO傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

2022年度は、ママ・ナ・ムトトプロジェクトの当初のプロジェクト期間の最終年度であった。雨宮春子ワーカーの派遣先である聖ヨハネ・パウロ2世病院を中心に、各施設の人材と技術レベルに応じて、セミナー、巡回指導（スーパービジョン）および各施設での現地研修やオンザジョブトレーニングを通じて、母子保健スタッフの助産知識や技術の向上を

図るために、以下の活動を実施した。

1) 母子カードを用いた助産知識と技術の向上

雨宮ワーカーが、妊婦健診、産褥健診、新生児健診および分娩期の母子の管理について、オンザジョブトレーニングの形で実施した。また、母子保健サービスの技術向上に、他団体が実施する研修も活用した。

2) 分娩管理の技術・知識の向上

聖ヨハネ・パウロ2世病院では、前年度から継続して、母子保健スタッフに対して、分娩監視装置を使用して適切な分娩管理をおこなうために、装置使用法の基礎研修(モニター判読方法も含む)を、座学と実技研修の形で実施した。

聖アンナ病院およびンダラ病院では、主に分娩にかかわる医師、看護助産師を中心に、短期集中・少人数による4日間の研修を実施した。

また、各施設でスタッフがトレーナーとなり継続研修を実施できるように、トレーナー候補の研修を実施した。

3) 新生児蘇生法の知識・技術の向上

他団体が実施する新生児蘇生法研修プログラムを活用して、次の3部構成で研修を実施した。

①外部研修（トレーナー育成）

9月に、3病院（ンダラ、聖アンナ・ミッション、聖ヨハネ・パウロ2世）から、将来トレーナーとして活躍が期待できる看護助産師を各1名選抜、他団体にて6日間の座学・実技トレーニングを受講した。

②セミナー

①のトレーニングを受講した看護助産師のフォローアップと、TAHO傘下10施設から参加した医師、看護助産師への新生児蘇生法の座学・実技トレーニングを実施した。外部研修受講者がトレーナーを務めたコンテンツもあり、他団体の研修プログラムが新生児蘇生法の技術習得、向上に効果が高いことが確認された。

③巡回指導（スーパービジョン）

外部研修、セミナーで実施した新生児蘇生法の研修を受け、各施設における技術の定着の確認と実技指導をおこなった。また上記3病院では、ほかの病院スタッフに対して1日の座学・実技研修を実施した。

上記の一連の研修を受け、各施設では、外部研修およびセミナー受講者が中心となって、実技研修用のトレーニング室を設置、定期的に継続して模型を使用したトレーニングを実施している。加えて、各病院で自主的に研修を継続できるように、雨宮ワーカーが研修資材を作成、研修資材を使った研修を実施した。

1月に実施した終了時評価では、分娩監視装置および新生児蘇生法の研修によって、3病院から、研修受講前に比べて死産および新生児死亡数が減少したことが報告された。また、分娩管理による早期診断と新生児蘇生法を用いて、救われたいのちがあったことも確認された。短期間で明らかに母子保健スタッフの知識・技術が向上し、改善がみられたことは大きな成果であった。各施設で研修を実施できるトレーナーが複数名育成され、研修が継続されることによって、母子保健スタッフの技術の向上、さらに病院の母子保健サービスの質が向上し、将来的にプロジェクトの上位目標である母体と周産期死亡率の減少につながることを期待できる。持続的に成果を出し続けるためには、分娩監視装置の活用および新生児蘇生法の確実な実施を定着させる必要がある。そのため、プロジェクト期間を1年延長することとなった。

[3 - 4] 災害救援復興支援

2021年度に続き、2022年度も新型コロナウイルス感染防止のための支援要請があると思われたが、要請はなかった。新型コロナウイルス感染防止関連の支援はなかった一方で、ミャンマーのクーデターによる難民への支援のため、タイの協力団体の支援要請に応えた。

(1) ミャンマー難民支援（タイ）

タイのNPO団体WTINDからの、ミャンマーのクーデターのため難民となってタイとミャンマーの国境付近に避難している人々への医療支援の要請を受け、5名（医師3名、看護師1名、ロジスティクス1名）からなる医療チームを派遣した。

* WTIND（Where There Is No Doctor） タイ北部のミャンマーとの国境に近い山岳地域にある、医師のいない村で社会活動をおこなうNPO団体

4. 国内諸活動

2021年度までは休止もしくはオンラインで実施していた国内での諸活動の多くが、対面での実施を再開できるようになった。

新規ワーカーの発掘育成を目的とする活動のうち、保健医療勉強会についてはオンラインで実施したほうが参加者にとって利便性が高いため、引き続きオンラインでの実施とした。

また、休止していたボランティア活動も部分的に再開し、使用済み切手運動の活動も再開できた。

[4-1] 国際保健人材育成

将来国際保健医療協力の分野で活動を目指す保健医療系の学生や、現職の保健医療従事者向けに、国際保健医療勉強会4回をオンラインで実施した。

(1) 国際保健医療勉強会

JOCSのワーカー志願者を念頭に、将来的に国際保健医療協力の分野に携わることが希望する人に学びの機会を提供するため、2022年度は計4回の勉強会を開催した。うち3回は「子どもたちのいのちに寄り添って」をテーマとし、アジアやアフリカの子どもたちのいのちに寄り添ったJOCSワーカーの働きを紹介した。遠方にお住まいの方々にもご参加いただけるよう、オンラインにて開催した。勉強会終了後は、ワーカー志望者に対して森田隆事務局長が派遣希望者説明会もおこなった。

第1回 子どもたちのいのちに寄り添って：タンザニアの事例

日時：2022年5月27日（金）18：30～19：30（19：30～20：15 派遣希望者相談会）

参加者：15名（女性13名、男性2名） *うち会員7名

【内訳】医師1名、看護師4名、助産師2名、保健師1名、薬剤師1名、言語聴覚士1名、精神保健福祉士1名、保育士1名、学生1名、牧師1名、回答無1名

講師：倉辻忠俊氏（JOCSタンザニア派遣シニアワーカー、2011年～2012年）

内容：医師として、人々に仕えるという召命に応えるために研鑽を重ね、生物医学研究を極め、国家レベルでの国際保健プロジェクトにかかわった上で、シニアワーカーに導かれた歩みが紹介された。またタンザニア・タボラの小児医療に関する状況に加えて、現地から学び、医療資機材や人材が不足している中でもできる対応を人々と共に考える大切さが説明された。

第2回 子どもたちのいのちに寄り添って：バングラデシュの事例

日時：2022年7月22日（金）18：30～19：30（19：30～20：00 派遣希望者相談会）

参加者：19名（女性17名、男性2名） ＊うち会員7名

【内訳】医師1名、看護師3名、言語聴覚士1名、薬剤師1名、保育士1名、心理
カウンセラー1名、学生3名、牧師1名、会社員4名、主婦1名、回答無
2名

講 師：小宅泰郎氏 (JOCS バングラデシュ派遣ワーカー、2000年～2003年)

内 容：チャンドラゴーナ・キリスト教病院における小児病棟の状況と改善策、コミュニ
ティでのマラリア迅速検査を用いた診断および治療活動について紹介した。世界の
5歳未満児死亡原因とチャンドラゴーナ・キリスト教病院における小児入院患者の
比較に加えて、日本とバングラデシュの経年的変化や COVID-19 感染者数の説明
もあり、国際保健における小児医療を具体的に学ぶ機会を提供した。

第3回 子どもたちのいのちに寄り添って：パキスタンの事例

日 時：2022年10月14日（金）18:30～19:30（19:30～20:00 派遣希望者相談会）

参加者：26名（女性21名、男性5名） ＊うち会員7名

【内訳】看護師6名、助産師2名、理学療法士1名、言語聴覚士1名、薬剤師1名、
学生7名、会社員1名、主婦5名、アルバイト2名

講 師：青木盛氏 (JOCS パキスタン派遣ワーカー、2007年～2014年)

内 容：途上国全般の小児医療事情を説明した上で、派遣されたパキスタンの聖ラファエ
ル病院にて、異なる文化や限られた医療資源の中、現地の同僚と共に、生まれたば
かりのいのちに寄り添った働きを紹介した。また、青木氏の支えとなった御言葉や
マザーテレサの言葉、ニューヨーク州立大学病院の壁に書き残された詩『クレド（弱
い者の信仰宣言）』もあり、神様のご計画の中で、人々と共に生きる JOCS ワーカー
の在り方も伝える機会となった。

第4回 国際協力とプロジェクトマネジメント

日 時：2022年12月2日（金）18:30～19:30（19:30～20:15 派遣希望者相談会）

参加者：12名（女性7名、男性5名） ＊うち会員1名

【内訳】医師1名、看護師2名、助産師1名、薬剤師1名、臨床検査技師1名、理
学療法士1名、栄養士1名、社会福祉士1名、学生3名

講 師：森田隆 (JOCS 事務局長)

内 容：JOCS の基本方針と事業概要を紹介した上で、外部者として開発に携わるにあ
たり念頭に置くべき、開発ステージ（タイミング）と介入内容の相関性、技術移転と
サービスデリバリーの違い、プロジェクトの概念とマネジメント手法・運営上の留
意点などを説明した。事例を交えたプロジェクトマネジメントの紹介に参加者の満
足度は高かった。

(2)スタディツアー

将来、国際保健医療協力の分野で活躍する人を育成するプログラムとして、タンザニア

でのスタディツアーを計画していたが、ツアー実施予定の時期に新型コロナウイルス感染症に関する水際対策の緩和が見込めず、実施を見送った。

雨宮春子ワーカーの派遣先であり、また協働プロジェクト「ママ・ナ・ムトプロジェクト」を実施している TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所) や聖ヨハネ・パウロ 2 世病院を訪問する予定であった。

[4 - 2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

使用済み切手運動や講師派遣、事務局訪問受け入れを通して、世界の困難な状況におかれた人々の状況の周知をし、国際協力活動に関する支援及び協働の機会を育んだ。新型コロナウイルス感染防止のため 2021 年度まで控えていた対面での活動も、一部再開できた。

(1) 使用済み切手運動

新型コロナウイルス感染防止のため 2 年間休止していた切手等整理のためのボランティア活動を、6 月から再開した。使用済み切手の寄付は、団体、個人合わせて 12,030 件、寄付総量は、約 7,000 キログラムであった。集まった使用済み切手の整理は、東京事務局 16 名、関西事務局 14 名のボランティアでおこなった。

スタンプショウへの参加

スタンプショウ 2022 2022 年 4 月 22 日 (都立産業貿易センター台東館)

(2) 講師派遣プログラム

JOCS の活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。問い合わせのあった以下の諸団体 (10 団体) に、感染対策を確認した上で、講師を派遣した。

派遣時期	派遣場所
7 月	日本キリスト教団 堺川尻教会教会学校
9 月	弘前学院聖愛中学高等学校
10 月	聖隷クリストファー大学 明治学院高等学校
11 月	恵泉女学園中学・高等学校 戸山教会附属戸山幼稚園 関西学院大学
12 月	同仁美登里幼稚園
1 月	土浦めぐみ教会附属マナ愛児園
3 月	成増高等看護学校 (3 回)

(3) 事務局訪問受入

JOCS の活動や使用済み切手運動を学ぶ機会を提供するため、中学生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れをおこなっている。今年度は、感染対策を確認した上で、学校など計 2 団体の訪問を受け入れた。

＜東京事務局＞

7 月 恵泉女学園中学・高等学校

＜関西事務局＞

12 月 わかくさ（使用済み切手運動参加ボランティア団体）

(4) 国際協力イベント参加

2022 年 10 月 1 日、2 日、新型コロナウイルス感染防止のためリアル会場とオンライン会場のハイブリッド開催されたが、JOCS は参加を見送った。

(5) ネットワーク活動

現在、「国際協力 NGO センター (JANIC)」「関西 NGO 協議会」「カンボジア市民フォーラム」「障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)」に加入している。

JANIC では、3 つのワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」「広報担当者グループ」に参加しているが、2022 年度は新型コロナウイルス感染防止のため、ウェブ会議にて情報および経験の共有をした。カンボジア市民フォーラムでは、森田隆事務局長が 2019 年度から共同代表を任っている。JANNET では、2021 年度までと同様に事務局スタッフが監事として運営に携わった。

「NGO 非戦ネット」（非戦の平和、共生を目指す NGO の緩やかなネットワーク）と『「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！」連絡会』の活動に賛同して呼びかけ人を務めた。

(6) 創立 60 周年記念事業

計画していた JOCS の活動を紹介する DVD 動画の制作の準備は、新型コロナウイルス感染防止や水際対策の 2022 年度における状況の見通しが立てられず、進められなかった。

(7) 地区ボランティア活動

各地区 JOCS も、徐々に活動をコロナ前の状態に戻しはじめ、イベントの実施や、使用済み切手の整理収集活動などがおこなわれた。事務局では、各地区 JOCS 主催のイベントに対し、JOCS 広報資料の提供などをおこなった。

また、2021 年度に続き、日本各地で JOCS の支援のために活動するグループがお互いの活動から学び合う機会として、地区 JOCS オンライン全体ミーティングを 2 月に実施した。

[4-3] マーケティング

会報誌「みんなで生きる」は例年通り6回発行した。キリスト教書店での広報活動や、奨学生やワーカーの最近の活動を紹介するなど工夫を凝らした雑誌広告など、新規支援者を得ることに実績がある活動を引き続き実施した。対面での書店店頭での広報活動は新型コロナウイルス感染防止のため2022年度はまだ実施できなかった。

(1) 会報誌『みんなで生きる』

発行回数：年6回（偶数月10日）

発行部数：通常号：5,500部

6・7月号（簡易版）：10,000部

体裁：A4判。4ページ（6・7月号）、12ページ（4・5月号、8・9月号、10・11月号、12・1月号、2・3月号）。

送付先：会員と年額1万円以上の寄付者等。ただし6・7月号は年次報告書と合わせて全支援者に送付した。

特集記事：4・5月号 岩本直美ワーカー第7期活動報告

6・7月号（簡易版のため特集記事はなし）

8・9月号 新プロジェクトに岩本直美ワーカーを派遣

10・11月号 タンザニア出張報告

12・1月号 JOCSにつながる人たちからのクリスマスメッセージ

2・3月号 インドネシア 奨学金事業モニタリング報告

その他、会長による巻頭言、ワーカーからの手紙、地区JOCSからの報告、新入会者報告、国内活動の案内や報告を掲載した。

評価活動：毎号、都道府県順に100人の会員を抽出し、往復ハガキでアンケートを送付した。毎回30通前後の回答を得た。得た回答は誌面づくりに役立てた。また随時会員の声として誌面で紹介した。

編集・校正ボランティア：編集にあたっては、以下のボランティアメンバーに協力をいただいた。柏木牧子氏（イラスト）、岸川瞳氏、古中大輔氏、那須野幸子氏



(2) 年次報告書

2022年6月に、2021年度（2021年4月～2022年3月）の海外事業、国内活動、会計

報告等をまとめた年次報告書を発行した。JOCSの活動内容と成果をわかりやすく伝えることを目的とし、ワーカーと共に活動する人々や奨学生、協働プロジェクトに関わる現地の人々を紹介した。また、新型コロナウイルス感染症に影響を受けた人々への災害救援復興支援活動を報告した。そのほか、国内での活動の報告や支援者の声も掲載した。例年通り、会報誌6・7月号と夏期募金趣意書を同封し発送した。

発行回数：年1回（6月10日発行）

発行部数：11,000部。発送数は約9,400部

体裁：A4版。20ページ

送付先：全支援者

評価：同封したアンケートのうち120通が返信された（回答率1.3%）。

印象に残った記事として「ワーカー派遣」「奨学金事業」が多く挙げられた。



(3) プレスリリース

株式会社 PR TIMES の社会貢献活動である「非営利団体サポートプロジェクト」を活用し、以下のプレスリリースをおこなった。

「バングラデシュで、知的障がいのある子どもを支えるプロジェクトを始めました」

リリース日：2022年8月24日

(4) 雑誌広告

キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』の7月号（6月発売）と1月号（12月発売）に1ページ広告を掲載した。7月号ではタンザニアのJOCS奨学生の働きについて、1月号ではインドネシアのJOCS奨学生の働きについて（信徒の友）、タンザニアの雨宮春子ワーカーの活動について（百万人の福音）、紹介した。ほかのキリスト教系雑誌への掲載を検討したが、実施に至らなかった。

『婦人之友』誌1月号（12月発売）に資料請求ハガキを付けた1ページ広告を掲載した。タンザニアの雨宮春子ワーカーの活動を紹介した。この広告を見て4名が入会した。

(5) キリスト教書店での広報活動

いのちのことは社直営のキリスト教書店で、以下のような広報活動をおこなった。

- ・デジタルサイネージ（電子看板）の掲示（東京）。
- ・書籍購入者全員へのチラシ配布（東京・大阪・通販）。チラシ約20,000枚を配布した。47名から資料請求があり、そのうち25名が入会し、2名が寄付者となった。

計画していた日本各地のキリスト教書店での広報活動は、数カ所に働きかけたが、実施には至らなかった。

(6) 教会訪問

新型コロナウイルス感染防止のため、教会での礼拝・ミサ等の集会は、時間短縮や出席人数制限等の対策が続いた。そのため、活動報告会開催の積極的な働きかけができなかった。そのような状況のなか、1件の講演申し込みがあり、3名の新入会と1名の新規寄付者を得ることができた。

理事・監事向けに教会での活動報告会の講習を実施した。

(7) 募金

2022年度の募金協力件数は以下のとおりである。

2022年度	依頼数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	9,549件	2,040件	21.4%	21,010,179円
冬期募金	9,606件	4,234件	44.1%	50,246,462円
その他の募金	—	—	—	6,060,679円
国別指定	—	—	—	737,461円
奨学金指定	—	—	—	66,123,397円
海外保健医療協力指定	—	—	—	5,100,000円
災害救援復興指定	—	—	—	1,533,400円
海外派遣指定	—	—	—	8,000,000円
管理費指定	—	—	—	2,342,140円
総計	—	—	—	161,153,718円

夏期募金は、例年通り、6月発送の年次報告書と『みんなで生きる』6・7月号に、募金趣意書と払込用紙を同封した。冬期募金では、バングラデシュの岩本ワーカーの活動を紹介する趣意書を発送した。

夏期・冬期募金の趣意書に会員募集の旨を載せたところ、夏期募金で3名、冬期募金で9名が寄付者から会員へ移行した。また冬期募金の趣意書を過去1年間の新規切手協力者52名に送付したところ、2名から新規のご寄付があった。一般寄付のほか、奨学金指定、国別指定等の寄付が集まった。



(8) 遺贈

役員変更に伴い、遺贈・相続財産寄付のパンフレットを更新した。2021年度に続いて、高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に、資料請求ハガキつきの3ページ広告を掲載した。『明日の友』読者4名から資料請求があった。年次報告書、冬期募金趣意書で遺贈パンフレットを案内したところ、電話や年次報告書アンケートによるパンフレット請求が6名からあった。信託銀行から、顧客の依頼により遺言書を作成しているとの表明が1件あった。また、遺言書作成のための専門家紹介の要望にも応えた。

2022年度は遺贈が2件、相続財産の寄付が3件あった。

(9) 物語データベースの作成

完成した物語データベースの活用について理事会で意見交換した。データベースに収めた物語を公開するアイデアが出されたが、当面は、一次データベースとして蓄えるものと広報に使用するものとは区別し、広報に使用する物語は慎重に文章を練ることとした。

(10) オンラインマーケティング

ホームページに、ワーカーの活動や奨学金事業の進捗状況等を毎月掲載し、SNSを通じて広く周知した。2022年度は、海外事業担当が出張時に撮影した動画等を積極的に掲載した。なかでも、ワーカーの活動紹介のためのビデオレターは反響が大きく、SNSのアクセス増加につながった。

また、メールニュースをテキスト形式からHTML形式で配信できるようにしたことで、メールニュース配信後に開封率やそれぞれの記事のクリック率を測れるようになった。

5. 運営体制

新型コロナウイルス感染防止に留意しながら、7月からは理事会を対面で実施した。ただし、一部の理事はオンラインで参加した。6月実施の社員総会は書面表決とした。理事会の諮問を受けた4つの委員会が、専門的見地から理事会へ答申をおこなった。

[5-1] 社員総会

2022年6月11日（土）午後2時から、東京都新宿区のキリスト教会館5階にある日本キリスト教海外医療協力会 東京事務局会議室にて、第61回定時社員総会を開催した。今回も、新型コロナウイルス感染防止のため書面での出席を呼びかけた。社員総数281名のうち、委任状163名、書面による議決権行使書の提出59名、計222名の出席をもって、成立した。総会では、まず、2021年度事業報告がおこなわれ、議事である2021年度決算報告、理事及び監事の選任が承認、決議された。議案審議の終了後には、2022年度事業計画、2022年度収支予算について説明がなされた。

[5-2] 理事会

定例理事会、電子メールによる臨時理事会（決議の省略）を、以下の日程、場所で開催した。定例理事会は、対面とオンライン会議システムを併用したハイブリッド形式、またはオンライン形式でおこなった。

2022年4月23日	オンライン会議
5月30日	電子メールによる第1回臨時理事会（決議の省略）
6月11日定時社員総会前	オンライン会議
6月11日定時社員総会后	オンライン会議
7月30日	日本基督教団 A 会議室 （オンライン会議システム併用）
9月17日	早稲田奉仕園 222 号室 （オンライン会議システム併用）
11月12日	日本基督教団 A 会議室 （オンライン会議システム併用）
2023年1月5日	電子メールによる第2回臨時理事会（決議の省略）
1月5日	電子メールによる第3回臨時理事会（決議の省略）
1月21日	日本基督教団 A 会議室 （オンライン会議システム併用）
3月18日	日本基督教団 A 会議室 （オンライン会議システム併用）

2022年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、土居弘幸、中寫裕一、
名取智子、東岡牧、本田まり、森田隆、柳澤理子

監事：榛木恵子、渡部芳彦

[5 - 3] 委員会

(1)財務委員会

委員長：大友宣

副委員長：羽山信輝

委員：中寫裕一、飯田多香子（事務局）、小池宏美（事務局）

新型コロナウイルス感染防止のため、協議はオンラインでおこなった。また、例年と同じように、委員長、副委員長は毎月、委員は四半期ごとに事務局から財務状況の報告を受け、予算が適切に執行されていることを確認した。

事業計画の変更に対応するため、2022年度も予算の補正を年度半ばの10月に協議、調整して、会長および常務理事に提出した。

会計責任者が立案した2023年度予算案は、2022年度決算見込みを確認の上で、2023年2月に協議、調整して会長および常務理事に提出した。

(2)奨学金委員会

委員長：小宅泰郎（2022年7月理事会まで）、柳澤理子（2022年7月理事会後から）

副委員長：柳澤理子（2022年7月理事会まで）、小宅泰郎（2022年7月理事会後から）

委員：澤田和美、細谷たき子、宮崎雅、

石金祐実（事務局）、滝澤さおり（事務局）、竹内里佳（事務局）

1) 2022年度奨学生選考

委員会での協議の結果、申請のあった5カ国97名のうち、24名を採用した。採用結果について理事会に答申し、全員承認された。

対象国	2022年度	
	申請者	支給決定者
インドネシア	46名	5名
ネパール	11名	7名
バングラデシュ	1名	1名
ウガンダ	25名	3名
タンザニア	14名	8名
合計	97名	24名

2) その他の協議

対象国の協力団体からの現状の聞き取り、奨学生の支援状況、奨学金事業国別方針を踏

まえ、2023年度の奨学金事業の協力団体について検討し、理事会で承認された。

昨今の保健医療人材のニーズが各国によって変化してきたことに伴い、奨学金事業国別方針の見直しを実施した。各協力団体とのモニタリング報告を踏まえて、国別方針案を検討し、理事会で承認された。

(3) 地区ボランティア活動委員会

委員長：久保礼子（2022年7月理事会まで）、東岡牧（2022年7月理事会後から）

副委員長：東岡牧（2022年7月理事会まで）、久保礼子（2022年7月理事会後から）

委員：川北かおり（2022年7月理事会まで）、川島泉、土居弘幸（2022年7月理事会後から）、宮川眞一、石金祐実（事務局、2022年7月理事会まで）、高橋淳子（事務局、2022年7月理事会後から）

オンラインでの委員会を3回、対面での委員会を2回開催した。日本各地のJOCS支援者（グループ）による自主的活動をさらに促進する方策を協議した。

(4) 5カ年計画 2018 総括及び5カ年計画 2023 原案検討委員会

委員長：大友宣

委員：平本実、柳澤理子、森田隆、名取智子

諮問事項：5カ年計画 2018 の総括原案、5カ年計画 2023 及びそのアクションプランの原案を検討する。

5カ年計画 2018 の総括、5カ年計画 2023、5カ年計画 2023 アクションプラン原案作成について、5回の委員会をオンラインで開催した。5カ年計画 2018 評価方針や評価項目、5カ年計画 2023 の方向性や目標についてオンライン委員会で協議した上で、大友宣委員長が原案を作成した。それをもとにメール上でさらに協議し、修正を加えて、理事会に答申として提出した。

[5 - 4] 事務局

2022年度は東京事務局は10名、関西事務局は1名の職員体制であった。引き続きテレワークを取り入れて、新型コロナウイルス感染防止に留意しながら事務局への出勤頻度を増やした。2022年度は、東京事務局、関西事務局とも、使用済み切手運動に関する業務、事務局の業務などにおいて、ボランティアの事務局での活動を部分的に再開した。事務局の業務については、10名のボランティアの協力をいただいた。

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

東京事務局 浅見有希子、飯田多香子、石金祐実、小池宏美、高橋淳子、
滝澤さおり、竹内里佳、森田真実子

関西事務局 江川由美

6. 社員会員・サポート会員の現状報告

2023年3月31日現在

社員会員	270名
サポート会員	2,923名
合計	3,193名

2022年度中の社員会員、サポート会員の異動

1. 社員会員

(1) 新たに社員会員となられた方	1名
(2) サポート会員から社員会員となられた方	1名
(3) 社員会員を辞し、サポート会員となられた方	1名
(4) 退会された方	19名

2. サポート会員

(1) 新たに入会された方	88名
(2) 退会された方	265名

7. 2022 年度の主な動き

- 2022 年 4 月 23 日 定例理事会
- 5 月 23 日 地区ボランティア活動委員会
30 日 電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
- 6 月 11 日 定例理事会
11 日 第 61 回定時社員総会開催（東京事務局）
- 7 月 30 日 定例理事会
- 8 月 6 日 奨学金委員会
22 日 地区ボランティア活動委員会
- 9 月 17 日 定例理事会
- 10 月 19 日 5 カ年計画 2018 総括及び 5 カ年計画 2023 原案検討委員会
22 日 地区ボランティア活動委員会
24 日 財務委員会
- 11 月 12 日 定例理事会
24 日 5 カ年計画 2018 総括及び 5 カ年計画 2023 原案検討委員会
- 12 月 10 日 奨学金委員会
14 日 5 カ年計画 2018 総括及び 5 カ年計画 2023 原案検討委員会
19 日 地区ボランティア活動委員会
- 2023 年 1 月 5 日 電子メールによる臨時理事会（決議の省略）
21 日 定例理事会
- 2 月 1 日 5 カ年計画 2018 総括及び 5 カ年計画 2023 原案検討委員会
4 日 地区 JOCS オンライン全体ミーティング
17 日 財務委員会
25 日 地区ボランティア活動委員会
- 3 月 7 日 5 カ年計画 2018 総括及び 5 カ年計画 2023 原案検討委員会
3 月 18 日 定例理事会